

南アルプス縦走山行報告

(山 域) 南アルプス

(コ ー ス) 野呂川出合⇒三峰岳⇒塩見岳⇒小河内岳⇒荒川前岳⇒小赤石岳⇒樫島

(登山方法) 小屋泊り縦走

(山 行 日) 平成 30 年 8 月 17 日(金)～8 月 20 日(月)

(参 加 者) 篠塚 勇 (単独)

(山行タイム)

8 月 17 日 野呂川出合 7:15⇒両俣小屋 9:15 9:30⇒野呂川越 10:30 10:40⇒三峰岳(ミヅダケ)14:30
14:40⇒熊の平小屋 16:00

18 日 熊の平小屋 4:50⇒新蛇抜山 6:25⇒北荒川岳 7:40⇒北俣岳 9:25⇒塩見岳 10:10 10:40
⇒塩見小屋 11:30 11:40⇒本谷山 13:30⇒三伏峠小屋 15:00

19 日 三伏峠小屋 5:00⇒水場 5:15 5:25⇒烏帽子岳 6:10⇒小河内岳 7:35 7:45⇒板谷岳 9:30
9:40⇒高山裏避難小屋 10:30 10:50⇒荒川前岳 14:10 14:20⇒荒川小屋 15:40

20 日 荒川小屋 5:00⇒大聖寺平 5:30⇒小赤石岳 6:40⇒赤石コル 7:00⇒富士見平 8:50⇒
赤石小屋 9:30 9:50⇒樫島 14:10

(山行報告)

◎1 日目(8 月 17 日) 晴れ

甲府駅前のホテルに前泊する。駅前から広河原行登山バスは 4 時 35 分発だ。30 分前に乗場に着いたが既に長い行列だ。バス 2 台に 30 人程の立席が出る。広河原に 6 時 30 分着。北沢峠行バス停にも長い行列だ。マイクロバス 4 台で 6 時 50 分発、野呂川出合(1,790m)に 7 時 5 分到着。空は群青色の快晴だ。降車したのは 2 組のご夫婦と私の 5 人だけ。2 組とも両俣小屋までで、釣り(大型のヤマトイワナが釣れるらしい)や名物小屋番の H 子さんと語らうのが目的で、リックに酒を忍ばせているとのこと。林道を歩くこと 2 時間で両俣小屋(2,000m)に到着だ。スタッフの話では毎晩の宴会続きで少々飲み疲れぎみとのこと。ここから急登が始まり、1 時間で仙塩尾根の野呂川越(2,290m)に着く。登山道を覆う倒木が続くダケカンバ林を徐々に高度を上げて行く。倒木越えに以外と時間がかかる。最後は急坂のコブ山を 2 山越えたら三峰岳(2,999m)山頂だ。間ノ岳山頂に人影が見える。山頂から今晚の宿の熊の平小屋が遥か下遠方に望める。痩せた岩稜帯・砂礫の台地・ジグザクの下り道の先に、森の中にヒッソリと佇む熊の平小屋(2,500m)に 16 時到着。遅くなったが若いスタッフが心よく迎えてくれる。看板に市営熊の平小屋と書いてあったので、何処の市か尋ねたら静岡市とのこと。静岡市はこんなに広いのか。泊りは 2 組のご夫婦と私の 5 人で、ここまで足を伸ばす人は少ないようだ。夕食時にスタッフの話では、2、3 日前にトランスジャパンアルプスレース(日本海～北～中央～南アルプス～太平洋を 8 日以内に走破)の選手が通過し、何時も上位の静岡市消防署勤務の選手も毎回休憩に立寄り、今回はここまで 2 時間の睡眠で取り過ぎたとのこと、驚きである。

◎2 日目(8 月 18 日) 晴れ

小屋を 4 時 50 分出発。小屋から 30 分ほど急坂の後は樹林帯の緩やかな上りが暫らく続く。途中反対側から明らかに足の運びのいい人は、3 時に三伏峠を出て間ノ岳、農鳥岳経由して奈良田まで下山すると言う。信じられない。急坂をひと登りしたら北荒川岳(2,698m)だ。ここから北俣岳までの西側が大

崩壊の絶壁だ。幕営禁止看板が 2 箇所、笹原、絶壁際の道、最後はザレ場のジグザグ急坂を 30 分ほど登りで北俣岳(2,940m)だ。はるばる二軒小屋～蝙蝠岳から来たと言う人が休憩している。脈わっている塩見岳を目指すこと 45 分で塩見東岳(3,046m)に到着。ここから三伏峠までは以前通った道だ。西岳で中休憩し、落石に気を付けながら、ガレ場の急坂を下り塩見小屋(2,760m)に到着。冷やしてあるボトル水(400 円)を一気飲みする。樹林帯の中、土曜日と好天に恵まれ塩見を目指す大勢の人とすれ違う。本谷山(2,657m)、三伏山を経由し、15 時に三伏峠小屋(2,560m)に到着。テント場はほぼ満杯だ。小屋泊りは意外や 30～40%位だ。小さな塩見小屋はフトン 1 枚に 2 人か。

◎3 日目(8 月 19 日) 晴れ

小屋を 5 時出発。キャンプ場は、荷物吊り降しのヘリポートになるので、5 時 30 分までテントを撤去しなければならず、大忙しだ。10 分程下った水場で水を補充し、秋の花が咲き始めたお花畑、所々に霜柱が立つ登山道、烏帽子岳(2,726m)、前小河内岳(2,784m)とアップダウンを繰り返し、なだらかな山容の小河内岳(2,801m)に到着。北には昨日登った塩見岳、東には霞に浮かぶ富士山、南にはこれから向かう荒川岳と赤石山、西と北西には中央・北アルプスが遮るものもなくキッキリ見渡せる。ハイマツと岩礫帯の急坂、樹林帯を下り、岩峰の大日影山を巻き、展望のない板谷岳(2,646m)で小休止。崩壊地際の道や樹林帯を下り、クラシック音楽が流れる高山裏避難小屋(2,450m)に到着し、行動食を取る。管理人もベンチで昼食(?)を取っているの、看板に水場 30 分と書いてあるので聞いたら、この先 30 分で登山道沿いに水場があるとのこと。小屋前にトレイルジャパン休憩用のビニールシートが敷いてある。ここのキャンプ場は番号札のついたよく整地されたテント場だ。小屋から急坂を 20 分ほど登るとほぼ水平だが悪路が続く。途中管理人が教えてくれた岩場から湧き出るおいしい水場があり水を補充する。荒川前岳直下には高低差 500m はある今回の縦走路で最大の急坂が立ち塞がる。下半分は赤い実のついた低木帯。上半分はガラガラ石帯のつづら折れ道だ。喘ぎ喘ぎ天辺に着くと、荒川前岳はまだまだ先だった。西側の大崩壊地脇を恐る恐る通過し、荒川前岳(3,068m)山頂に着く。18 年前に榎島⇒千枚岳⇒荒川岳⇒赤石岳⇒聖岳⇒榎島と周回したので、今回は悪沢岳(荒川東岳)をパスする。予定では荒川中岳避難小屋に泊まる予定だったが、14 時過ぎなので荒川小屋まで行くことに変更する。動物除け柵に囲まれた大きなお花畑を過ぎ、熊ノ平小屋から百間洞小屋まで私の 3 日相当を 1 日で駆け下りて行く健脚者がいる。3 日分の疲労もありコースタイムをオーバーし 15 時 40 分荒川小屋(2,646m)に到着。夕食は具材がよく煮込まれた荒川カレーは美味しく、お代わり自由とのことなので、大盛 2 杯を平らげた。食後外で涼んでいたら、東側斜面が夕日に照らされ真っ赤に染まり絶景だ。写真は撮り損ねた。

◎4 日目(8 月 20 日) 曇り

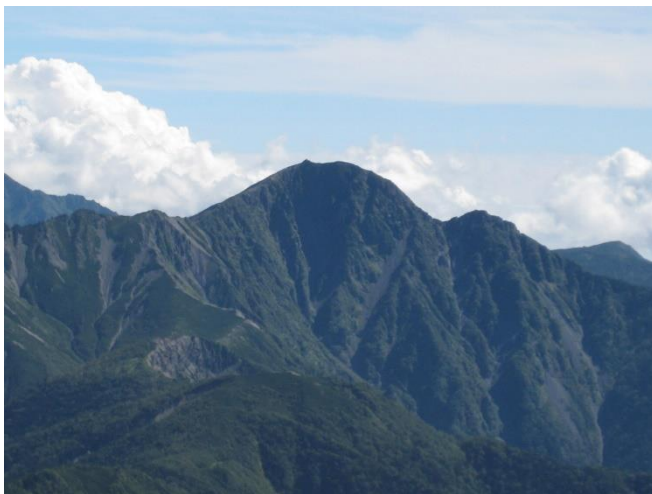
小屋を 5 時出発。ほぼ水平の気持ちのいい道を進むこと 30 分で大聖寺平だ。ここから今回縦走路最後の登り急坂の始まりだ。登り切った少し先が小赤石岳(3,081m)だ。この時点では北の荒川岳方面の展望はよかったが、南の赤石岳方面は濃いガスに覆われている。赤石岳山頂を踏む予定であったが、ガスで展望がなく前回山頂を踏んでいるので赤石コルから下山することにする。この下山路は初めてで、約 2,000m の下降だ。直下は今回一番の見下ろすほどの急坂の連続、沢水場で小休憩する。この頃から左足指が痛み始める。傾斜は緩くなり、幾つもの栈橋を渡り富士見平に着く。遮る物がなく景観は良さそうだが、この時点では全方位ガスに覆われ展望がない。暫らくすると赤石小屋(2,563m)に到着。

小屋前の水を貰いたいと受付いた 50 才代(?)の女性に声を掛けたら「イイですよ」と気持ちの良い返事。行動食を食べ中休憩。長い長い下り坂をモクモクと歩くこと 4 時間強、鉄階段を降り 14 時 10 分 榎島(1,123m)の到着。コルからの下りで時間がかかり過ぎてしまった。あわよくば 13 時発の送迎バスに間に合えば、今日中に自宅に帰れたが後の祭りだ。受付で持参したレトルト食品が手付かずだったので登山小屋を予約する。カウンター脇には柘植さん情報の衛星公衆電話があったが、下山報告を携帯電話(ソフトバンク)でかけてみたら意外や意外、繋がった。後で聞いた話では NTT と au は繋がらないがソフトバンクだけは繋がるらしい。登山小屋は年季の入った小屋で、床は歪み、木製の扉と窓、虫が入って来るので蚊取線香を焚く。痛い左足薬指には大きな水膨れができていた。靴紐が緩んでいたせいか、最終でよかった。同室者 1 名おり、止めどなく山の自慢擬き話を消灯(20 時)まで語らう。

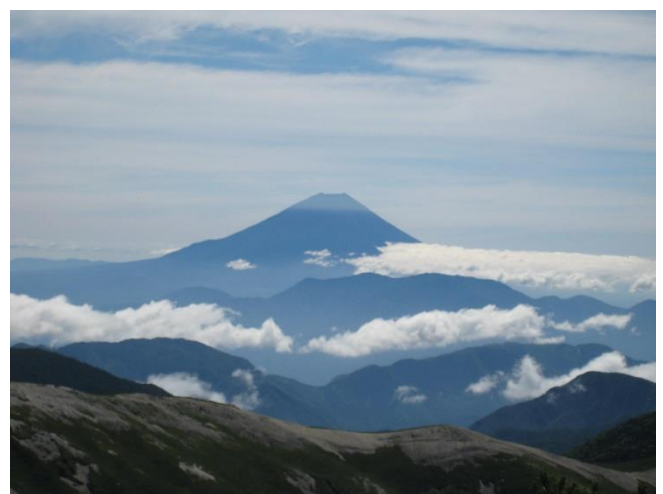
翌日の午前中はマッタリと過ごす。昼食のレストランで食べた赤石カレーは、同じ東海フォレスト運営の荒川小屋と全く同じ味だ。榎島発送迎バスは 13 時発。畑薙ダム臨時駐車場で予約してあった「毎日あるペン号」に乗換え、白樺荘で 1 時間の入浴休憩、高速道路では夕方渋滞に巻き込まれ、新宿経由で真夜中に帰葉した。

昨年の北アルプス裏銀座縦走・今年の大峯奥駈道縦走と天気恵まれなかったが、今回は連日の好天気で気持ちの良い山行ができた。4~5 日間の縦走はきつくなってきたので、これからは日程を短縮した縦走にしようかと考えている。

以上



三峰岳からこれから向かう塩見岳(中央)



塩見岳から見た富士山



小河内岳山頂にて



荒川前岳直下のガレ場の咲く花(花の名は?)



荒川小屋の夕食



樺島の登山小屋